

V 学校給食の指導

学校給食は学習指導要領において特別活動の学級活動に位置付けられており、小学校及び中学校の「学習指導要領解説―特別活動編」において、給食の時間における指導は、標準時数に含まれないものの、教育課程上の学級活動として指導計画に基づいて行われる極めて重要な学校教育活動であり、給食の時間の設定に当たっては、ゆとりをもって食事ができ、十分な指導ができるよう時間の確保に努めなければならないとされている。

1 給食の時間における食に関する指導

(1) 給食の時間における食に関する指導の基本

食に関する指導の成果は、一度の実践で得られるものではなく、少しずつ時間をかけながら繰り返し行うことで、指導内容の理解が深まり習慣化されるものである。したがって、給食の時間において日々繰り返される食に関する指導は極めて重要である。

給食の時間には、義務教育の9年間を通して、計画的、継続的に食に関する指導を行うとともに、学級の仲間や教師と和やかで楽しい会食をするなど、学校生活の中で、緊張から解放され、気分転換を図ったり、午後に向けての活力を生みだしたりすることもできる。教職員は一緒に楽しく食事をするを通して、児童生徒に対する理解を深めることはもとより、学級全体の好ましい人間関係を育てる上でも、積極的に児童生徒の食事のグループに入り、指導の充実に努めることが大切である。

なお、給食の時間における食に関する指導は、次の3点が掲げられる。

- ① 給食指導
- ② 献立を通して、食品の産地や栄養的な特徴等を学習させる。
- ③ 教科等で学習したことを、学校給食を通して確認させる。

この3点のうち①給食指導は、給食の準備から後片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳の方法、食器の並べ方、はしの持ち方(使い方)、食事のマナーなどを習得させるものであり、毎日の給食の時間に学級担任が行う食に関する指導であり、保健指導、安全指導とともに、児童生徒が生涯にわたり楽しく明るい生活を営むための基礎づくりをめざす体育・健康に関する指導として重視されなければならないとされている。

②、③は、学校給食を食に関する指導の教材として活用する際の2つの視点であり、献立作成においては、指導の教材としてのねらいを明確にする必要がある。

(2) 給食の時間における食に関する指導の特質

給食の時間における指導は、給食の準備、会食、後片付けなどの一連の指導を、実際の活動を通して繰り返して行うという特長がある。また、献立の工夫により、「食事」という体験を通して、教科等で得た知識を具体的に確認したり深めたりすることで、学習効果を高めることができる。準備から、会食、後片付けまでの一連の指導が、45分～50分程度あり、年間にすると約190単位時間となる。意図的・計画的に進めることで、教育的効果が得られる。給食の時間は、以下に示した内容を十分に踏まえて指導することが大切である。

ア 実践活動を通じた具体的な指導を行う。

給食に使用されている食品に含まれる栄養素や、料理の由来や献立について、実際に食事をするとという実践活動を通しての指導ができる。

イ 習慣化を図る。

年間190回程度実施されている給食の時間に、繰り返し指導を行うことにより、望ましい食事のとり方の習慣化を図ることができる。

ウ 教科等の学習内容と関連を図る。

生活科や総合的な学習の時間に栽培した食品の給食への活用や、教科等の学習内容と関連付けた献立について食に関する指導を実施することができる。

2 給食の時間における食に関する指導の内容

小学校における指導の内容は、楽しく会食すること、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備、自然への恩恵などへの感謝、食文化、食料事情などであり、中学校における指導の内容は、楽しく会食すること、栄養の偏りのない食事のとり方、食中毒の予防にかかわる衛生管理の在り方、共同作業を通して奉仕や協力・協調の精神を養うこと、自然の恩恵などへの感謝、食文化、食料事情などである。

【食に関する指導の内容例】

指導内容	具体的な指導の内容
1 楽しく会食 すること	<ul style="list-style-type: none">○ 食事のマナーを身に付け、楽しく会食をする。<ul style="list-style-type: none">・食器やはしの持ち方、並べ方、食事の姿勢など、基本的なマナーを習得し、楽しい雰囲気の中で会食できるようにすること。○ さまざまな人々との会食を通して人間関係を深める。<ul style="list-style-type: none">・学校給食の場合は、社会の一員としての自覚を高めるための社交の場であり、児童生徒相互、児童生徒と教職員、親子、地域の人々などとの楽しい会食を通して、相手を思いやるなど豊かな人間関係を育てること。・食事の場にふさわしい会話を通して、楽しい会食を工夫すること。
2 健康によい 食事のとり 方	<ul style="list-style-type: none">○ 食品の種類や働き、栄養のバランスのとれた食事のとり方が分かる。<ul style="list-style-type: none">・食品の種類や名前が分かり、食べ物に興味関心をもつこと。・料理の名前が分かり、健康のためには食事が大切であること。・食品に含まれる栄養素により3つのグループに分けられることや五大栄養素と食品の体内での働きが分かり、栄養のバランスを考えた食事ができること。・食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、身体の発達に伴い必要な栄養や栄養素の量を理解すること。 (中学校)○ 日常の食事の大切さが分かり健康によい食事の仕方を身に付ける。<ul style="list-style-type: none">・偏った食べ方をせず、バランスよく食べることやよくかんで食べることの大切さを理解すること。 (低学年)・食事と運動・休養等との関連を考え、自分の健康を考えた食事をとること。 (中学年)・自分の将来の健康を考え、望ましい食習慣や生活習慣を身に付けること。 (高学年・中学校)